

RUBeC 演習を終えて

奥村直洗

Naomitsu OKUMURA

機械システム工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は、2015年8月15日から8月31日までの二週間、アメリカ合衆国カルフォルニア州バークレー市にある Jodo Shinshu center にて、RUBeC 演習を受講しました。この演習科目において、私は英語のライティングとプレゼンテーションの仕方について学びました。

2. 参加目的

私が RUBeC 演習に参加した目的は、海外での生活を通して自分自身の英語能力の向上をはかることと異なる文化と生活を学ぶことです。また、国際学会での発表を目指し、英語でのプレゼンテーションの仕方と英語での論文執筆を学習するためです。そして、異なる国に行くことで様々な人々の価値観を知り、自身の視野を広げるためです。

3. 授業の内容

テクニカルライティングの講義では、先生との軽い英会話から始まり事前に作成しておいた自身の研究に関する英文要旨を校正するため、英文の基本構造や接続詞、冠詞などに関して学びました。軽い英会話では、その日の調子や授業以外であった出来事などを話し、少しずつですが聞き取り話せるようになっていきました。テクニカルライティングでは、私にとって特に冠詞について理解していなかった事が多かったので勉強になりました。冠詞 (a, the) や接続詞などの使い方について先生の説明を聞き、問題を解き、英語でペアと話し合う授業はとても有意義な時間でした。

そして、何度か課題に沿った英文を作成し先生と添削を行いました。その際、内容について説明し内

容に沿った英文に直していきました。自分の研究内容を伝えるのが難しく難航したこともありましたが良い経験になりました。最後に自身の研究の英文要旨を完成させました。

プレゼンテーションの講義では、プレゼンテーションで使うスライドの作成や英語の喋り方について学びました。

スライドの作成では、多くの情報を載せるよりもシンプルに作成する方がよいこと、英語の発音やイントネーション、アイコンタクト、ジェスチャーの方法、単語の中で最も強勢を置いて読む word stressなどを学びました。最初は、全体的に出来ていないことが多く、スライド作成では情報量が多く見づらいと指摘され見やすく改良するのに苦労しましたが、相手に見やすく、分かりやすく説明し理解してもらうためには重要なことだと分かりました。また、イントネーションや発音が悪いと指摘され、この状態では相手に正しく伝わらない事が分かり少しずつ改善していきました。

最終日のプレゼンテーションでは、英語での発表は初めてであり早口になってしまい、これまでに学んで意識してきた、イントネーションや発音、ジェスチャーやアイコンタクトなどのプレゼンテーションに欠かせない点を疎かにしてしまったと思います。それでも、途中で止まらず詰まらず、最後までしっかり発表できたとは思いますが。

今回の講義を経て、英語でプレゼンテーションを行う際の重要なスキルを教わり、英語力の向上につながったと感じます。また、英語での発表は初めてだったので自信に繋がったと感じます。

4. 企業見学と大学訪問

RUBeC 演習の二週間のうち一週目の水曜日に Keysight Technologies 社に訪問させて頂きました。Keysight Technologies 社は、計測機器を主に製造・開発している大手企業です。この会社を見学して最も印象に残ったのは、パーティカル・インテグレーションと言う仕組みを取り入れていることです。こ

の仕組みは、下請けや子会社なしに製品を自社のみで研究、開発、製造をすることです。私は一つの製品を作るにしても色々な会社が協力して完成させていくものだと思っていたので大変印象に残りました。また、この会社がこの仕組みを取り入れているのは、自社特有の技術の流出を防ぐためと、他社ではどうやっても真似できない技術であるからだそうです。これを聞いて私はこの会社の製品の精度の高さに対する自信と意識の高さ、誇りを感じました。また、製品の製造過程を見学しながら説明と疑問点に答えていただきました。その際に、製造過程を見学し知らなかった多くの高度な技術が使われていることを知りました。

二週目の水曜日には、UC Davis 校に訪問させて頂きました。この大学は、カルフォルニア大学に属する 10 校のうちの一校であり、特に獣医学や農学が有名です。今回の訪問でこの大学の教育方針や学科の特色、行動指針などを学びました。訪問して最初に思ったことは、大学の規模が広大なことでした。説明の時にも規模が大きいため構内の移動の為に自転車が必要であると聞き、見学の際も自転車での移動が目に見え、いたるところに自転車置き場があるのが印象的でした。また、学生起業を支援する制度があり、私は日本では聞いたことが無かったので驚きました。これは、起業するために必要な事を教える講義や起業に成功した人の話を聞くなど、学生が起業するために必要な要素が充実しているようです。また、この他にも学生が自主的に行う行事

が多くあり、このような挑戦していく姿勢を見習っていきたいと感じました。

5. アメリカで生活して

今回の留学が初めての海外経験であり、当初は及び腰になっていたところがありました。そのためか、買い物する時も英語が聞き取れず状況からの推測もできず、当初は時間が掛ってしまい周りに迷惑をかけたと思います。また、タクシーに乗る時も発音が悪いのか住所を聞き取ってもらえず時間がかかったこともあります。しかし、時間が経つにつれて慣れてきて聞き取れるようになり、堂々とした態度で物事に取り組めるようになっていきました。また、当初は海外に苦手意識を持っていましたが、今回の留学を経てなくなりました。これにより、海外に興味を持てるようになり前よりも積極的に海外の事について関わって行きたいと思えるようになりました。これは、海外に対しての心理的ハードルが下がったためだと思います。

6. おわりに

今回の留学で、プレゼンテーションの方法や日常会話でのコミュニケーション、文化や習慣、価値観などを学んだ経験は非常に大切なものになったと感じます。また、より一層海外に目を向ける必要性を感じ、これから先、今回の経験を生かせるようにより勉学に励み、行動していきたいと思います。